

ることを得べき乎かれら新郎と共にを問ひ、食することを得じ。將來かれら新郎をとりて、日きたら  
 ぬ其日に、食すべき也。新しき布を舊衣小縫つくる者わらじ、若し然せば、其新衣補へるもの舊衣縫  
 て其破かへつて、惡なるべし。亦わたらしき酒を舊き草囊にいり、若し然せば、酒ハ其囊を破  
 裂て、酒もれいで、草囊も亦壞るべし。新酒ハ新しき草囊に盛べきもの也。○三 爾ハ安息日に、麥の臼を過  
 りしに、其弟子あゆみつゝ、麥の穂を摘はしめければ、パリサイの人彼に曰ける、何彼安息日に、爲まじき事  
 をするハ何故ぞ。イエス答ける、ハダレ及び、從に在し者、之をくして、飢しどき行たる事を未だ讀ざる乎。  
 即ち祭司の長アビサロの、どき神廟に入て、唯祭司の外ハ、食まじき供物のパンを食かつ、從に在し者にも與  
 たり。また彼等に曰ける、安息日の爲に散られたる者にして、人ハ安息日の爲に散られたる者に非ざ  
 り。然ハ人の子ハ安息日にも主たる也。二  
 イエスまた會堂に入り、一手拈たる人ありけるが、衆人イエスを訟へんとし、彼ハ此人を安息日  
 に醫すや否と疑へり。イエス拈たる人に曰ける、何の中に立よ。また衆人に曰ける、安息日ハ善を行と  
 惡を行と生るを救ふと殺すと、孰をか爲べき。彼等默然たり。イエス怒を含て、環視し、彼等の心の頑硬なるを  
 憂ひ、手拈たる人に、爾の手を伸よ。と曰ければ、心彼の手の伸よと、聞ち他の手のごとく、愈たり。○六 パリサイの  
 人いで、如何しか、イエスを殺さんと直に、ヘドロの黨に相談りぬ。○七 イエスらの弟子と共に、海邊に退し  
 に、多の人々カラヤより、彼に從へり。又エサヤ、エルサレムイブヤ、エルサレム、の外また、ツロ、シドン、の邊  
 より、多の人々、イエスの行し事を聞て、彼に群り來る。イエス人々の群集に、因て、擁なやせざる事、亦からん  
 爲に、小船を我に備ふけ、其弟子に曰り、是イエス數多の人々を愈し、く、因て、凡て疾める人々手にて、彼に

マ太二一節〇一

ルカ四三節五

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

マ太二一節〇六

ルカ四三節三

擲んとて、擁逼し、故あり。また汚たる鬼かれを見て、其前に俯伏さけびて、爾ハ神の子ありと曰しを、イエ  
 ス彼等に、我を擲すと、勿とと、嚴く戒めたり。○十一 イエス山に登て、其意に適入所の者を召し、かば來りて、彼に  
 候り、是を拈て、十二人を立て、已に偕に置きた、教を宣傳る爲に遣し、かつ、病を醫し、鬼を逐出すの權威を授  
 く。乃ちシモンをペテロと名け、セバイの子ヤコブと、其兄弟ヨハネの二人をボアソルと名ぐ、之を  
 譯ハ雷の子あり。又アンソレ、ピロ、バルトロマイ、マタイ、トマ、アルパヨの子ヤコブ、アマツ、ガイカ、ソンのシ  
 モン、又イナカリ、オラの、ユダ、此ハイエスを賣し、者あり。此等の者、家に入り、に多の人々、また來り集けれ  
 ば、食する暇もなかりき。らの親屬、さきて、彼ハ狂氣せりと、言て、之を奪んとて來る。又エルサレムより、下れ  
 る學者等も、彼ハヘルゼブルに、憑れたり、日鬼の王に、藉て、鬼を逐出すなりと曰り。○十三 イエス彼等を召び、疊を以  
 て、曰ける、ハサマソ、ハ何でサマソを、逐出し得んや。もし國、爲のれに、悖て、分争は、其國、立へからず。また、家  
 かのれ、亦悖て、分争之、其家、立べからず。若サマソ、己を悖り、起て、分争は、彼たつ、可からず、反て、終るべ  
 し。誰にても、勇士の家に入りて、其家、眞を奪んとせば、先勇士を、縛らざれば、ハハ、入て、能は、縛て、後ろの家を、奪  
 ぶべし。われ、誠に、爾曹、お告ん、人の凡の罪、を、讀す所の、裏讀ハ、赦るべけき。聖靈を、讀す者ハ、限なく、赦さる  
 可からず。限なき、刑に、干らん。斯いへる、人々、イエスを、惡鬼に、憑たりと、言し、が故あり。○三 彼の兄弟と、母  
 と、來りて、戶外、お立ち、人を、遣して、イエスを、呼し、多の人々、イエスを、選て、坐したりし、が故に、曰ける、ハ見よ  
 爾の母と、兄弟、并、在て、爾を、尋ぬ。イエス答て、曰ける、ハ我母わら、兄弟わら、誰ぞや。斯て、側に、坐する、人々を  
 環視して、曰ける、ハ我母わら、兄弟を見よ。爾の神の、旨に、彼ら、者ハ、是わら、兄弟わら、姉妹わら、母あり  
 第三十章 イエスまた、海濱にて、教訓を、始し、に、多の人々、かき、集り、ければ、彼舟に、乘て、坐し、凡の、人々、ハ、海濱、沿

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

マ太三〇一節〇四

て岸に立り、かれ等をもて多の事を彼等に教ふ、教て曰ける、**三** 聽よ、種播もの播んとて出、播るとき或種、**六** 入路の傍を覆ひしが空の鳥きたりて之を食へり、或種ハ土すき、硬地に遺じが土深からねば直に萌出たれど、日出じかば曝れ根なきが故に枯たり、或種ハ棘の中に遺じ、棘乃ちたてて之を蔽ひ、穀を結ばざり、**八** 又或種ハ沃壤を遺じが其苗之いで、**十** 播り實を結ると、或ハ三十倍、或ハ六十倍、或ハ百倍せり、**九** 又彼等に曰ける、**十一** 耳ありて聽ゆる者ハ聽べし、**十二** 衆人の居ざりし時、イエスの側に在し者ハ十二弟子と此等を開じかば、**十三** イエス彼等に曰ける、**十四** 神の國の奧義を爾曹にハ知、ことを賜へば、他の者ハ凡て譬を以てす、**十五** 是かれば、視て見ず、聽て聽らば、心改めて其罪の赦を得ざらん爲なり、**十六** 又彼等に曰ける、**十七** 爾曹この譬を知ざるか、然ハ如何して凡の譬を講べんとを得んや、**十八** 爾播者の教を播なり、道に播れて路の傍に遺じものハ人道を聽じと、**十九** 直にサカッ来て其心に播れたる道を奪取かり、**二十** 又硬地に播れたるものハ人道を聽じと、**二十一** 直に喜びて之を受、**二十二** 然ども己に根なきが故に、**二十三** 暫用のみ後道の爲に患難のるひハ迫害も遇さざり、**二十四** 忽ち碾く者あり、**二十五** 又棘の中に播れたるものハ人道を聽じ、**二十六** 世の思慮と貨財の惑また各様の情欲より來りて道を蔽により、**二十七** 終に實を結ざる者あり、**二十八** 沃壤に播れたるものハ人道を聽て之をうけ、**二十九** 或ハ三十倍、或ハ六十倍、或ハ百倍の實を結ぶ者あり、**三十** 又彼等に曰ける、**三十一** 燈を持來りて斗の下、**三十二** 或ハ人の床の下に置もの有んや、之を燈臺の上に置かり、**三十三** 燈を明瞭にあらざるを、**三十四** 亦く覆て露れざる者ハなし、**三十五** 耳ありて聽ゆる者ハ聽べし、**三十六** 又彼等に曰ける、**三十七** 爾等、**三十八** 爾曹が度る所の量をもて爾曹も度らるべし、**三十九** 聽たる爾曹にハなほ加られん、**四十** 爾有る者ハなし、**四十一** 爾有る者ハなし、**四十二** 爾有る者ハなし、**四十三** 爾有る者ハなし、**四十四** 爾有る者ハなし、**四十五** 爾有る者ハなし、**四十六** 爾有る者ハなし、**四十七** 爾有る者ハなし、**四十八** 爾有る者ハなし、**四十九** 爾有る者ハなし、**五十** 爾有る者ハなし、**五十一** 爾有る者ハなし、**五十二** 爾有る者ハなし、**五十三** 爾有る者ハなし、**五十四** 爾有る者ハなし、**五十五** 爾有る者ハなし、**五十六** 爾有る者ハなし、**五十七** 爾有る者ハなし、**五十八** 爾有る者ハなし、**五十九** 爾有る者ハなし、**六十** 爾有る者ハなし、**六十一** 爾有る者ハなし、**六十二** 爾有る者ハなし、**六十三** 爾有る者ハなし、**六十四** 爾有る者ハなし、**六十五** 爾有る者ハなし、**六十六** 爾有る者ハなし、**六十七** 爾有る者ハなし、**六十八** 爾有る者ハなし、**六十九** 爾有る者ハなし、**七十** 爾有る者ハなし、**七十一** 爾有る者ハなし、**七十二** 爾有る者ハなし、**七十三** 爾有る者ハなし、**七十四** 爾有る者ハなし、**七十五** 爾有る者ハなし、**七十六** 爾有る者ハなし、**七十七** 爾有る者ハなし、**七十八** 爾有る者ハなし、**七十九** 爾有る者ハなし、**八十** 爾有る者ハなし、**八十一** 爾有る者ハなし、**八十二** 爾有る者ハなし、**八十三** 爾有る者ハなし、**八十四** 爾有る者ハなし、**八十五** 爾有る者ハなし、**八十六** 爾有る者ハなし、**八十七** 爾有る者ハなし、**八十八** 爾有る者ハなし、**八十九** 爾有る者ハなし、**九十** 爾有る者ハなし、**九十一** 爾有る者ハなし、**九十二** 爾有る者ハなし、**九十三** 爾有る者ハなし、**九十四** 爾有る者ハなし、**九十五** 爾有る者ハなし、**九十六** 爾有る者ハなし、**九十七** 爾有る者ハなし、**九十八** 爾有る者ハなし、**九十九** 爾有る者ハなし、**百** 爾有る者ハなし、

五十六  
馬可傳  
第四章  
自一至二十七節  
五十六

る故を知す、**二** 天地の自から實を結ぶものにして、**三** 初にハ甘くき、**四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五** 既に熟ハ穢の中に熟したる穀を給ふ、**六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**二十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**三十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**四十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**五十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**六十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**七十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**八十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十一** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十二** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十三** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十四** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十五** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十六** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十七** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十八** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**九十九** 穢の中に熟したる穀を給ふ、**百** 穢の中に熟したる穀を給ふ、

五十七  
馬可傳  
第五章  
自二十八至五十二節  
五十七

家に入せよと曰ければ、イエス直に彼等に許せり汚らざる魚の一人より出て家に入れば約二千四百は、  
 の群はびしく馳くたり山より海に落して海に溺れ、牧者ども逃ゆきて此事を邑また郷村も告げれば衆人  
 共ありし事を顧んで出、イエスも来りて悪鬼に憑れたる者すかばちレキヨンを持たりし人の衣服をつ  
 け慥なる心にて坐し居けるを見て懼あへり、此事を見し者ども悪鬼に憑れたりし者の事、家の事を彼等  
 に告げれば、顧てイエスも其魂を出んことを求め、イエス舟に登んとせしとき悪鬼に憑たりし者どもに  
 居んことを求めけれども、イエス許すして彼に曰ける、爾の家を歸り親屬に往て主の爾に行ひ大なる事と  
 爾を懼みし事を告よ、彼ゆきてイエスの已に行たまへる大なる事をテカボリスに言揚しければ衆人みな  
 駭かへり。○イエス舟に乗て復海の彼岸に濟じ、大勢の人々彼に集る、イエス海に近をれり、會堂の  
 等ヤロトといふ人きたり、イエスを見て其足下に伏、切々に來いひける、我いとけかき女死る願にかりぬ  
 之を救ふ爲に來りて手を彼に披たせ、然バ女が生じ、イエス彼と共に往て、き衆多の人々、彼を從ひて擁  
 あへり、爰に十二年血漏を患たる婦あり、此婦おほくの醫者の爲す甚だ苦められ、其所有をも盡く費しけ  
 れども何の益もなく轉て悪かりしが、イエスの事を聞て群集の中より彼の後、來るの衣を握れり、是ろ  
 の衣おだお押らば愈るべしと曰バあり、斯て血の漏るごと直もどまり既に疾い之と、其身に覺たり、イ  
 ス自ら能力の已より出たるを知おほせし人の人を顧みて曰ける、我衣を握りし者、誰なる乎、弟子か  
 れに曰ける、群集の人々の爾も擁わふを見て我に拘りし者、誰ぞと曰たまふ乎、イエスこの事を行なふ婦  
 を見んと環視しければ、婦おほく戦慄おのが身おせられし事を去り來りて彼の前に俯伏せど、く實情を  
 告、イエス彼に曰ける、女よ、爾の信なんぢを救ひ、安然にして往なんぢの疾いゆべし。○イエスこの事を

日本六冊 卷第十六章

本六〇九 卷四十一

一列五五 卷九

本六〇九 卷四十六

本六〇九 卷四十二

本六〇九 卷四十九

言をうるうちに會堂の宰の家より人々來りて曰ける、爾の女すでに死たり、何ぞ師を煩とす乎、イエス直に  
 其告る所の言をさし會堂の宰も曰ける、懼るゝ勿た、信せよ、イエス、テロとヤコブ及びの兄弟ヨハナ  
 の外、誰にも共に往てを請ざりしが、既に會堂の宰の家來りて人々の忙亂のたぐ栗粒を見る、入て  
 彼等に曰ける、何ぞ忙亂かつ哭や、女死るに非た、寝たる耳、彼等、イエスを唾笑ふ、イエス凡の人々を出  
 し女の父母どうの從へる者等を率つれば女の臥たる所に、入、女の手を執て之に曰ける、タリタリ、之を認  
 べ、女よ、我、あなたに命す起よといふ、義なり、直に女起きて行り、めり、彼、年十二歳なり、彼等、之、之、驚き、ぬ  
 イエスこの事を人に知する勿れと、嚴く戒め、又女に食物を與ふと命じたり  
 此を聞て奇み曰ける、何れにして此人、斯のごとき事あるか、誰より此智慧を授けられて、如何ふべきある事  
 を、其手より行か、彼、木匠に非ずや、マリヤの子ヤコブ、ヨセフ、セメオン、の兄弟、あはして、其、妹、も、此に、我  
 儕と共に在に非ずや、遂に人々かれに懼けり、イエス、彼等に曰ける、預言者ハノの故郷、その親戚、その家  
 の外に、於り、尊されざることを、おし、イエス、彼處にて、患者に手を披た、と、數人を醫じ、く、外、ふ、し、き、ある、事、を行、て  
 能ざりき、また、彼等の、信せざるを、奇み、遂に、諸郷を、經、巡、て、教を、な、せ、り、○、イエス、十二の、弟子、を、召、て、彼、等  
 を、二、人、づ、つ、遣、さん、ど、して、之に、惡鬼を、逐、出、す、權、威を、授、け、且、かれらに、命、じ、ける、ハ、一、の、樹、の、外、ハ、旅、の、用、意、に  
 何をも携なかれ、旅袋糧食また金をも携せず、たゞ履をはき、二の衣をきる勿れ、また、彼等に曰ける、何處に  
 ても人の家に入らうの所を去まへ、其處に居、凡て爾曹を接する者、なんぢらに聽ざる者、ハ、其處を去と、き、置、  
 のため、足下の塵を拂へ、我、之、に、爾曹、お、告、ぐ、審、判、の、日、に、た、ら、バ、ソ、レ、ム、ラ、ハ、此、邑、よ、り、も、却、て、易、か、る

本六〇九 卷四十一

本六〇九 卷四十二

本六〇九 卷四十六

本六〇九 卷四十九

本六〇九 卷五十三

本六〇九 卷五十九

べし 弟子たち出て人々に悔改む可とを宣傳へ され多の悪賢を逐出し又多の病る者に膏を沃て醫し  
ぬ ○イエスの名播りければプロテ王これを聞て日けるハプロテ王を誦じヨハネ死より廻れる故に  
奇異ある能をなす也 或人ハ之をエリアなりといひ或ハ往昔の預言者の如き預言者なりと曰ハプロテ之  
を聞て日けるハ是れが首斬し所ハヨハネ也かれ死より廻りたる也 曩にハプロテの兄弟ピリポの妻ハロ  
テヤの事に因て人を遣しヨハネを捕て羅に繋げり蓋ハプロテの彼の婦を娶しをヨハネ誦て稱允弟の妻を  
納ハ宜からずと曰るに因てあり ハプロテヤ彼を怨て殺さん欲しかば能ざりき ハプロテハヨハネを義か  
つ善ある人として彼を敬み彼を保護かれに聞て多の事を行ひ且喜びて彼に聽こせせり 斯てハプロテ  
の誕生の日もろくの大臣千人の長およびガリラヤの尊き人々に享宴をなせる機會の日いたりけり  
ハプロテの女きたりて舞をなしハプロテと其席に列れる人々を樂まじむ王の女に日けるハ何にても我に  
來ハ爾が望どるの者ハ我なんがに與ふべし 又彼に凡ハ爾が求るものハ我が領分の半に至るとも爾に  
與ふと誓ふ 女いで其母に何を求べき乎と曰ければ母乃ちハプロテのヨハネの首と曰り 女たち  
に急ぎ王にきたり求てハプロテのヨハネの首を盆に載て即時に我に賜へと曰 王甚た憂げれども既に  
誓たると同席の者の故をもて之を拒むて之を欲す 王たちヨハネの首を携來せし命じて兵卒を遣  
しければ彼ゆきて船に於て之を斬 其首を盆にのせ携來りて女に與ふ女之を其母に與たり ヨハネの  
弟子等この事を聞て來り其屍を取て墓に葬りぬ ○使徒等イエスに集りて行へる事と教へ事とを悉く彼  
に告 イエス彼等小日けるハ爾曹衆を過て我と偕小暫く寂宴せとて小往て休むべし是往來のもの多じて  
食する暇も無しとの故なり されば人を遣舟かて寂宴せとて往り 其往を見て衆人おほくイエスを  
食する暇も無しとの故なり

四 五〇頁  
五 本百〇一 九〇七  
六 本百〇二 九〇九  
七 本百〇三 九一〇  
八 本百〇四 九一一  
九 本百〇五 九一二  
一〇 本百〇六 九一三  
一一 本百〇七 九一四  
一二 本百〇八 九一五  
一三 本百〇九 九一六  
一四 本百一〇 九一七  
一五 本百一一 九一八  
一六 本百一二 九一九  
一七 本百一三 九二〇  
一八 本百一四 九二一  
一九 本百一五 九二二  
二〇 本百一六 九二三  
二一 本百一七 九二四  
二二 本百一八 九二五  
二三 本百一九 九二六  
二四 本百二〇 九二七  
二五 本百二一 九二八  
二六 本百二二 九二九  
二七 本百二三 九三〇  
二八 本百二四 九三一  
二九 本百二五 九三二  
三〇 本百二六 九三三  
三一 本百二七 九三四  
三二 本百二八 九三五  
三三 本百二九 九三六  
三四 本百三〇 九三七  
三五 本百三一 九三八  
三六 本百三二 九三九  
三七 本百三三 九四〇  
三八 本百三四 九四一  
三九 本百三五 九四二  
四〇 本百三六 九四三  
四一 本百三七 九四四  
四二 本百三八 九四五  
四三 本百三九 九四六  
四四 本百四〇 九四七  
四五 本百四一 九四八  
四六 本百四二 九四九  
四七 本百四三 九五〇  
四八 本百四四 九五〇  
四九 本百四五 九五〇  
五〇 本百四六 九五〇

り 諸邑より歩行かて廻り彼等の往んとする所へ先ち往てイエスも集れり ○イエス出て多の人を見ホ彼  
等ハ牧者なき羊の如き者なるに因て之を憐み許多の事を教へしめぬ 爾すでも喜宴おあひりけれ心其弟子  
かれに來ひけるハ此ハ寂宴せとてに時既晩し 衆人の食ふべき物なきが故に其自ら四周の鄉村  
小往てパンを市んが爲ホ彼等を去しめ給へ イエス答けるハ爾曹之も小食を與ふ弟子かれ小日けるハ我  
儕ゆきて銀二百のパンを市かれら小與て食しむ可か イエス彼等小日けるハパンハ幾何ある往て視よ彼  
等みて其數をしり五のパンと三の魚ありと答ふ イエス衆の人を細々わして青草の上に坐せしめよと命じ  
ければ 或ハ百人或ハ五十人づつ列坐せり イエス五のパンと三の魚をとり天を仰き割してパンを  
かり弟子と與て人々の前に陳じしむ又二の魚を每人に分與ぬ 衆人みな食て飽るのパンの餘屑を拾  
しホ十二の筐も盈たり パンを食たる男おほく五千人なり ○直ホイエスの弟子を強て舟に乗じか  
ふの岸なるベツサイタへ先わたらしめ己ハ衆人を歸じし 衆人を歸じし 衆人を歸じし 衆人を歸じし 衆人を歸じし  
て舟ハ海の中ホ在イエスハ獨り陸に居り 風逆入る因て弟子等の舟を轉小勞たるを見て曉の四時でら  
イエス海の上を履きたり 彼等を過んどせしむ 弟子の海を履るを見て變化の物ならんと意ひ叫びたり  
蓋弟子みホ之を見て懼じしが故かりイエス直に彼等に語りて日けるハ心安かれ我なり懼るること勿れ  
に舟に登じかば風やみぬ彼等必の中に駭き與るること甚し 是等の心の愚頑に因てパンの奇跡をも覺さ  
りし也 ○既に濟グササレといふ地に到て舟泊せり 彼等舟より出に候て人々イエスを知て 徧く其  
四方の地へ馳ゆき病る者を床の繼にて昇りイエスの在す處々を聞出して之に就り 凡ハイエスの至ると  
ころ或ハ郷あるハハ邑あるハハ村の街市に病る者を置て彼に其衣の襪もだに押らせ給へと求り乃ち押

五 本百〇四  
六 本百〇五 九四七  
七 本百〇六 九四八  
八 本百〇七 九四九  
九 本百〇八 九五〇  
一〇 本百〇九 九五〇  
一一 本百一〇 九五〇  
一二 本百一一 九五〇  
一三 本百一二 九五〇  
一四 本百一三 九五〇  
一五 本百一四 九五〇  
一六 本百一五 九五〇  
一七 本百一六 九五〇  
一八 本百一七 九五〇  
一九 本百一八 九五〇  
二〇 本百一九 九五〇  
二一 本百二〇 九五〇  
二二 本百二一 九五〇  
二三 本百二二 九五〇  
二四 本百二三 九五〇  
二五 本百二四 九五〇  
二六 本百二五 九五〇  
二七 本百二六 九五〇  
二八 本百二七 九五〇  
二九 本百二八 九五〇  
三〇 本百二九 九五〇  
三一 本百三〇 九五〇  
三二 本百三一 九五〇  
三三 本百三二 九五〇  
三四 本百三三 九五〇  
三五 本百三四 九五〇  
三六 本百三五 九五〇  
三七 本百三六 九五〇  
三八 本百三七 九五〇  
三九 本百三八 九五〇  
四〇 本百三九 九五〇  
四一 本百四〇 九五〇  
四二 本百四一 九五〇  
四三 本百四二 九五〇  
四四 本百四三 九五〇  
四五 本百四四 九五〇  
四六 本百四五 九五〇  
四七 本百四六 九五〇  
四八 本百四七 九五〇  
四九 本百四八 九五〇  
五〇 本百四九 九五〇

るほどの者のみな愈たり

**三** **リサイ**の人は或學者たちエルサレムより來りてイエスの前に集り、彼の弟子の中に潔らざる手即ち鹽ざる手にてパンを食する者ありしを見て之を責めたり。蓋バリサイの人とユダヤの八々のみな古の人の遺傳を守りて其手を潔からんとせむをば亦食せず。此はか材極銅かよび床を洗なば多端の遺傳を守り、是に於てバリサイの人も學者等イエスに問けるハ、鹽の弟子ハ何ゆゑ古の人の遺傳に遵之ずして鹽ざる手を以てパンを食する乎。イエス答て彼等ハ曰けるハ、リサイの偽善者ある關係を指てよく預言せり其鏘し言に此民ハ層にて我を敬へども其心ハ我に遠かり、人の誠を敬て爲て徒らに我を拜すと曰り、夫なんぢらハ神の誠を棄て、人の遺傳を守れり。即ち鍋柄を洗おほく此の如き事を行ふ。また彼等に曰けるハ、爾曹ハ實に己の遺傳を守んとて能も神の誠を棄る者なり。モーセ曰けるハ、爾の父母を敬へ又父あるハ、母を敬へる者ハ殺るべし。然て爾曹ハ曰も、人父あるハ、母に對て爾を養ふべき物ハ、コルバツ即ち禮物なり。曰ハ、事すども可也。而して人の其父あるハ、母の爲に何をも行事を爾曹罰す。却ぢんぢらハ其教ふる所の遺傳をもて神の道を廢らす。又おほく此類の事を行ふ。イエスマた衆庶を召て彼等に曰けるハ、爾曹みな我言を聽て、悟れ。外より人に入ものハ人を汚す。と能はず。然て人より出るものハ人を汚す也。聽ゆる耳ある者ハ聽べし。イエスマ衆庶を驅れて室に入りて其弟子たゞへの意を問ければ、彼等に曰けるハ、爾曹もなほ悟ざる。か凡そ外より人に入ものハ人を汚し能はざる事を知ざる乎。蓋るの心に入ず。腹に入て、爾に遺すな。と食ふ所のもの潔れり。又曰けるハ、人より出るものハ、是人を汚す。人の心より出るものハ、惡念、姦淫、苟合、兇殺、盜竊、貪婪、惡惡、詭譎、好色、嫉妬、謗讟、驕

- 1 本五〇
- 2 本五〇二
- 3 本五〇三
- 4 本五〇四
- 5 本五〇五
- 6 本五〇六
- 7 本五〇七
- 8 本五〇八
- 9 本五〇九
- 10 本五〇一〇
- 11 本五〇一一
- 12 本五〇一二
- 13 本五〇一三
- 14 本五〇一四
- 15 本五〇一五
- 16 本五〇一六
- 17 本五〇一七
- 18 本五〇一八
- 19 本五〇一九
- 20 本五〇二〇
- 21 本五〇二一
- 22 本五〇二二
- 23 本五〇二三
- 24 本五〇二四
- 25 本五〇二五
- 26 本五〇二六
- 27 本五〇二七
- 28 本五〇二八
- 29 本五〇二九
- 30 本五〇三〇
- 31 本五〇三一
- 32 本五〇三二
- 33 本五〇三三
- 34 本五〇三四
- 35 本五〇三五
- 36 本五〇三六
- 37 本五〇三七
- 38 本五〇三八
- 39 本五〇三九
- 40 本五〇四〇
- 41 本五〇四一
- 42 本五〇四二
- 43 本五〇四三
- 44 本五〇四四
- 45 本五〇四五
- 46 本五〇四六
- 47 本五〇四七
- 48 本五〇四八
- 49 本五〇四九
- 50 本五〇五〇

傲狂安なり。是等の惡行ハ、みな内より出て人を汚すもの也。イエス此を去てツロドシロンの境にゆき、家に入りて人に知れざらん事を欲しが、隠れ得ざりき。ろハ惡鬼に憑たる幼き女を有る婦イエスの事を開て來り、其足下に伏たるに因てなり。この婦ハ、サイロビシヤに生れしギリシヤの者なりしが、惡鬼を其女より逐出し給へん事をイエスに求り、イエス彼に曰けるハ、先兒女に飽しむべし、兒女のパンを取て犬に投るハ、善らざる。婦之たへて曰けるハ、主よ、然ざれば、犬も案の下に在て兒女の遺屑を食ふ也。イエスマ婦に曰けるハ、此言に因て歸れ、惡鬼ハ爾の女より出たり。婦の家に歸て惡鬼既に出て女の床に臥たるを見る。イエスツロドシロンの地を去てツカボリスの地を過かり、ラヤの海に至れり。三人ハ衆の勸をイエスに携來りて、手を接給はん事を求ければ、イエスマ衆人を離れ之を外ハ、携ゆき指を其耳にさし、いれ又應じて、其舌に捫り、且天を仰て嘆じ、其人に對て、エツパサと曰これヲ譯バ、吾よとの義なり。直に其耳ひらけ。舌の結ゆるみて正く言へり。イエス之を人に告る勿と、彼等を戒むれば、取むるは、惡言揚じぬ。衆人は本々だしく駭きて曰けるハ、此人の行し所とどく。善あるハ、いハ、聲を聽之。させや、或ハ、嘔者を言はしめたり。當時つまされる人々甚だ多し。しが何の食物も有ざりければ、イエスマ弟子を召て曰けるハ、我々の多の人々を憫む。既に三日われど共に居し、ゆゑ今なにも食物なし。もも飢し、まゝ其家に歸さば、途間にて憊れ、其中に遠處より來れる者あれば、也。その弟子かれに答けるハ、此野にて何處よりパンを得てこの人々を飽めん乎。イエス彼等に問けるハ、パン幾何あるや。と答ふ。イエスマ人々に命じて、地に坐せしめ、七のパンを取て、謝し之をわり、人々の前に陳し、めんが爲の弟子亦與ければ、即ち人々の前に陳り、また小き魚を些須もてり之をも、祝して、人々の前に陳せり。曰、人々これをして、飽う。餘屑を七の盤に拾り、之を食する者

- 1 本五〇一
- 2 本五〇二
- 3 本五〇三
- 4 本五〇四
- 5 本五〇五
- 6 本五〇六
- 7 本五〇七
- 8 本五〇八
- 9 本五〇九
- 10 本五〇一〇
- 11 本五〇一一
- 12 本五〇一二
- 13 本五〇一三
- 14 本五〇一四
- 15 本五〇一五
- 16 本五〇一六
- 17 本五〇一七
- 18 本五〇一八
- 19 本五〇一九
- 20 本五〇二〇
- 21 本五〇二一
- 22 本五〇二二
- 23 本五〇二三
- 24 本五〇二四
- 25 本五〇二五
- 26 本五〇二六
- 27 本五〇二七
- 28 本五〇二八
- 29 本五〇二九
- 30 本五〇三〇
- 31 本五〇三一
- 32 本五〇三二
- 33 本五〇三三
- 34 本五〇三四
- 35 本五〇三五
- 36 本五〇三六
- 37 本五〇三七
- 38 本五〇三八
- 39 本五〇三九
- 40 本五〇四〇
- 41 本五〇四一
- 42 本五〇四二
- 43 本五〇四三
- 44 本五〇四四
- 45 本五〇四五
- 46 本五〇四六
- 47 本五〇四七
- 48 本五〇四八
- 49 本五〇四九
- 50 本五〇五〇

はよろ四人なり乃ちイエスの之を歸しぬ。イエス直に其弟子と共に舟に乗てガリラヤの方に往じに  
 十、パリサイの人いで、彼を試んがため天よりの休徴を求めて語之じむ。イエス心の中に深く歎息して曰  
 ける、此世の人なんん休徴を求めや、誠にて我なんんがらに告ん休徴、此世の人に必ず與られじ。イエス彼等  
 を離れて復海に乘むかふの岸に濟れり。○さて弟子パンを携ふることを忘れたる一パンのみ舟に有き  
 十一、イエス彼等を戒めて曰ける、戒心してパリサイの人の郷僻と、ローマの獅殿を慎めよ。弟子たがひお歸し  
 て曰ける、是パンを携へざりし故ならん。イエス之を知て彼等亦曰ける、何ぞ互にパンを携へざりし事  
 を論ずるや、未だ悟ざるか、爾曹の心さほ頑か、目ありて視ざるか、耳ありて聴ねざる乎、またた覺ざる乎、我五  
 千人に五のパンを擘わたりし時々の餘屑を糞篋ひろひしと答ける、十二なり。又四千八十七のパンを擘  
 わたりし時々の餘屑を糞篋ひろひしと答ける、七なり。イエス彼等亦曰ける、何ぞ悟ざる乎、○イエス  
 ツキイ至に至りて、人々尊者を携來りて、之に手を接たせし事を求り。イエス尊者の手を執て、村の外  
 へ携出するの目を唾して、手を彼ら接ひける、何か視るや、尊者目を擧て曰ける、我ての八々の歩行を見  
 に、樹の如し。遂にイエス杖を彼の目お接するの目を擧せしければ、乃ち愈て庶物あきらからず視たり。○  
 十二、イエス彼を其家にお歸らせ曰ける、此村お入なかれ、且この村人お告る勿れ。○イエスらの弟子と共わカ  
 十三、ガザリヤとペリシの諸村へゆく途間、其弟子お問て曰ける、衆人、我を白て罰する乎、答ける、或人  
 十四、ハバテマス、ヨハネ、エリヤ、或人ハナニヤ、或人ハナニヤなり。○イエス彼等に曰ける、爾曹、我を  
 十五、白て罰する乎、答ける、爾ハナニヤなり。○イエス彼等を戒めて、我事を誦し、告る勿れ、命じた  
 十六、り。○また人の子の必す多の苦難をくらげ、長老祭司の長學者どもに棄られ、且殺され、三日の後に甦るべし  
 十七、

二本五〇九  
 三本五〇九  
 四本五〇九  
 五本五〇九  
 六本五〇九  
 七本五〇九  
 八本五〇九  
 九本五〇九  
 十本五〇九  
 十一本五〇九  
 十二本五〇九  
 十三本五〇九  
 十四本五〇九  
 十五本五〇九  
 十六本五〇九  
 十七本五〇九  
 十八本五〇九  
 十九本五〇九  
 二十本五〇九  
 二十一本五〇九  
 二十二本五〇九  
 二十三本五〇九  
 二十四本五〇九  
 二十五本五〇九  
 二十六本五〇九  
 二十七本五〇九  
 二十八本五〇九  
 二十九本五〇九  
 三十本五〇九  
 三十一本五〇九

を彼等亦し始たまへり。明に之を示し給ひ、ハバテマスを擧て、罰せしに。○イエス回顧するの弟  
 子を見て、テラを戒め曰ける、ハバテマ、我後に退け、爾ハ神の情を思ふ、及て人の情を思ふ。○衆人、其弟  
 子と共に召て彼等に曰ける、若し我に從之んと欲ん者、己を棄るの十字架を背て我に從へ。其生命を  
 十五、全うせんとする者、己を棄て、我に從ふ。且福音の爲に生命を棄る者、己を棄て得べし。○も、人全世界を得  
 十六、んも、其生命を棄て、何の益あらん乎。また人何を其生命に易んや、姦惡ある此世、亦我て我道を  
 十七、恥する者、己の子も亦聖使と共に父の榮光をもて來る時之を耻べし。  
 十八、**第九節**、イエスまた彼等に曰ける、我まてに爾曹に告ん、此に立もの、中お神の國の權威をもて來るを  
 十九、見せり。死ざる者あり。○さて六日の後、イエス、テラ、ヨハネ、を伴ひ、人を遣て高山に登り給ひしが  
 二十、彼等の前にて其容貌かたり。其衣か、やき白て、甚だしく、雲のごとく、世上の布、標も、斯まろく、ハ能  
 二十一、とざるべし。エリヤとモセと共お彼等お現れて、イエスと語をれり。○テラ、答て、イエス、お曰ける、ハ  
 二十二、我儕と、お居り、善われらば、三の鷹を建せ給へ。ハ主のため、ハモセのため、ハエリヤの爲おせん。此  
 二十三、ハ其謂と、ころを、知ざりしなり。彼等、いたく、懼しに、因、斯て、雲、彼等、を、蔽ひ、雲、より、出て、曰ける、此ハ、我、の、愛  
 二十四、子、なり、之、お、聽べし。帳、て、弟子、環視、せし、ハ、イエス、曰、己、の、外、ハ、一人、を、見、ざり、き。○山、を、下、る、時、ハ、イエス、彼  
 二十五、等、お、命、じて、人、の、子、の、死、より、甦、る、迄、ハ、爾、曹、の、見、し、事、を、人、に、告、る、勿、れ、と、曰、り。弟子、等、之、の、言、を、守、か、つ、互、に、論  
 二十六、じ、曰、ける、ハ、死、より、甦、る、と、云、ハ、何、の、事、か。彼、等、ハ、イエス、お、問、て、曰、ける、ハ、エリヤ、ハ、前、に、來、る、べし、と、學、者、の、曰、る  
 二十七、ハ、何、ぞ、や。ハ、イエス、答、て、曰、ける、ハ、實、に、エリヤ、ハ、前、に、來、り、て、萬、事、を、復、た、せ、た、人、の、子、に、就、て、ハ、其、各、様、の、苦、難、を  
 二十八、受、か、つ、輕、蔑、ら、る、と、事、を、書、さ、る、と、され、たり。然、と、我、お、ん、が、ら、に、告、ん、エリヤ、ハ、既、に、來、し、に、彼、に、就、て、録、さ、れ、た、り、し  
 二十九、

二本五〇九  
 三本五〇九  
 四本五〇九  
 五本五〇九  
 六本五〇九  
 七本五〇九  
 八本五〇九  
 九本五〇九  
 十本五〇九  
 十一本五〇九  
 十二本五〇九  
 十三本五〇九  
 十四本五〇九  
 十五本五〇九  
 十六本五〇九  
 十七本五〇九  
 十八本五〇九  
 十九本五〇九  
 二十本五〇九  
 二十一本五〇九  
 二十二本五〇九  
 二十三本五〇九  
 二十四本五〇九  
 二十五本五〇九  
 二十六本五〇九  
 二十七本五〇九  
 二十八本五〇九  
 二十九本五〇九  
 三十本五〇九  
 三十一本五〇九